

「環境学習（川） 香美市立舟入小学校」

令和6年7月12日（金）に、香美市立舟入小学校の5年生が鮎のくし打ち体験及び投網体験を行うとともに、物部川漁業協同組合長の松浦氏より物部川の状況やそこに生息する鮎についてのお話を伺いました。

（主催：香美市立舟入小学校 協力：物部川漁業協同組合）

こども達はまずレクリエーションとして、くし打ちの際に鮎の口を触ってみることと、鮎を触った後の手の匂いを嗅いでみるようアナウンスを受けて、その後、鮎のくし打ちを体験しました。

鮎を掴むとそのぬめりに驚くこともありましたが、物部川漁協の皆様には鮎の黒いあたりに打つんだよなど、教えてもらいながら上手にくし打ちをしていました。

くし打ちの時に鮎の口を触ってみると歯がヤスリみたいになっていることなどを体感したり、鮎を触った後の手の匂いを嗅いだこども達からスイカみたい、きゅうりみたいなどの感想がでていました。

鮎のくし打ちの後は、投網体験。投網は、網の先に重りがついたものをふわっと投げ、上手な人ですと、この網が広がっていき美しい円形を描きます。子どもたちはお手本を見た後、教わりながらチャレンジ。ふわっと広げるのは中々上手くいかないこともありましたが、楽しみながら貴重な経験をしていました。

体験の後には、こども達は物部川漁業協同組合長の松浦氏から物部川の状況や鮎についての座学を受けました。授業では、鮎はキュウリウオ科に属し苔を食べるなど、鮎のくし打ちの際の体感を踏まえた内容となっていました。

また、他にもその苔が育つためには、日光が必要で、そのために川の透明度が大切など、環境と生物とは関係していることを学んでいました。

最後には、串を打った鮎をみんなで食べて「おいしい」との声があがっていました。

